

# 風土記の丘の花だより<sup>200</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年8月26日)

この花だよりは、おかげさまで200号となりました。ご愛読ありがとうございます。かと言って、特別なことを書くでもなし、珍しい植物を紹介するでもなし、いつも通りの花だよりを書き続けていきたいと思っておりますので、これまでどおり気楽にご覧ください。



資料館前の駐車場の近くにサルスベリが見事に咲いています。いろいろな品種がありますが、これは濃いピンク色です。江戸時代に中国から渡来したと言われている庭木です。漢字では「百日紅」の字を充てますが、これは、花期が長く、梅雨のころから秋まで咲き続けることによります。日本名はご承知のとおり、幹がつるつるなので、木登り上手なお猿さんでも滑って登れないということによります。でも、そんな間抜けな猿もいないでしょうね。



コナラの木の下にどんぐりの付いた枝が落ちているのにお気づきでしょうか。この前の台風で落ちたものではありません。風で折れたのなら枝の断面がささくれているはずですが、スパッと切ったようです。これはハイイロチョッキリというゾウムシの仲間がどんぐりに卵を産んだあと、切り落としたものです。幼虫はどんぐりを食べて育ち、やがてどんぐりから出て、地中に潜ってさなぎになります。数ミリほどの小さな虫のどこにそんな知恵があるのでしょうか。どんぐりをよく観察すると、産卵時にあけた穴が見付かるでしょう。



小早川家の畑にエビスグサが植えられていて、細長い豆のさやが目立ちますが、黄色い花も咲いています。エビスグサの豆をお茶にしたものが「はぶ茶」です。昔は毒蛇のハブに咬まれた時の特效薬とされていたためこの名前が付いています。漢方では「決明子・けつめいし」と呼ばれ、何かしらの薬効があるみたいです(詳しくないので、ごめんなさい)。ところで、エビスグサの葉に虫食いが目立ちます。これはかやぶき屋根の周りで飛び回っているヒメハキリバチが巣作りのために、噛みちぎっていった跡です。



そのエビスグサの畑の端に薄いピンク色の華やかな花が咲いています。(すでに過去形、咲いていました。でしょうか。これを書いているのは22日です。) ナツズイセンの花です。園芸ではリコリスと言われます。ヒガンバナのように、花期には葉がありません。花のあとに葉が出てきて、それがスイセンに似ているので「夏水仙」と名付けられました。でもスイセンの仲間ではなく、ヒガンバナの仲間です。さて、次は300号を目指して頑張ります。 松下